

第2回 『豊田市矢作川河川環境活性化プラン検討委員会』

資料－3
矢作緑地の現状と課題
(人の利活用の視点)

平成27年3月3日

豊 田 市

1. 矢作緑地の概要

1.1 概要

矢作緑地は、昭和42年12月15日に豊田都市計画第4号矢作緑地として計画決定された。鶺の首橋付近から越戸ダムまでの矢作川の左右岸に位置する面積223.4haの緑地である。

矢作緑地内には、豊田スタジアム前の千石公園や白浜公園、平戸橋公園、川端公園等、複数の公園が点在する。[豊田市街地に近接し、都市域の貴重なオープンスペース](#)となっており、スポーツや散策に利用されている。

矢作緑地内は、河畔林が形成されており、矢作川に生息する多くの生物の生息空間となっている。



図-1 空中写真

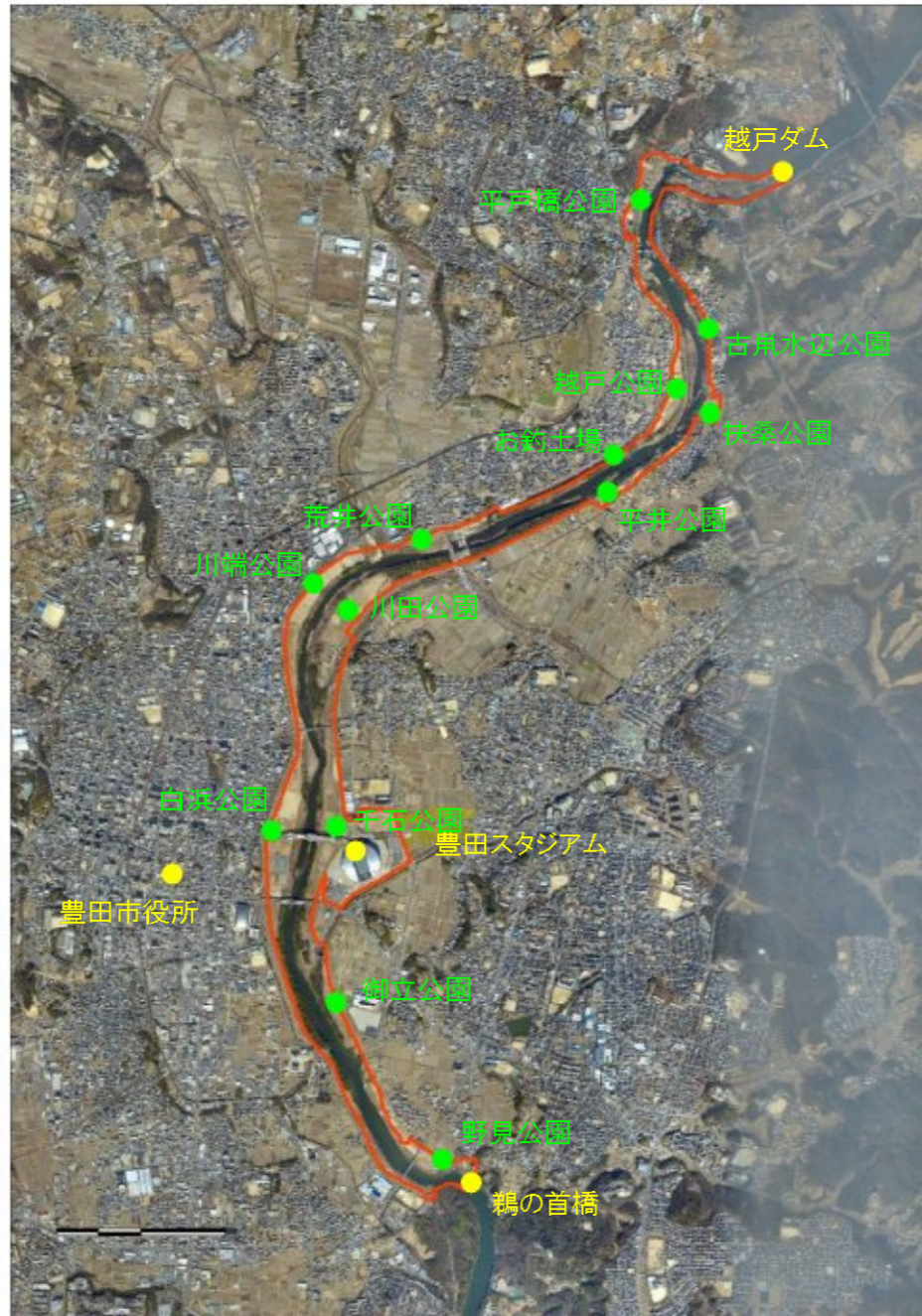


図-2 矢作緑地位置図

2. 矢作緑地の現状

2.1 利用実態

(1) 矢作緑地の利用形態

矢作川の矢作緑地が整備されている区間は、グラウンドやテニスコート等のスポーツ利用や、堤防沿いの散策等で利用されている。河川空間利用実態調査結果(国土交通省)から矢作緑地の利用形態について以下の特徴がある。

- ・矢作川右岸側は、[スポーツ利用者が増加している。](#)
- ・矢作川左岸側は、[利用者数が減少している。](#)

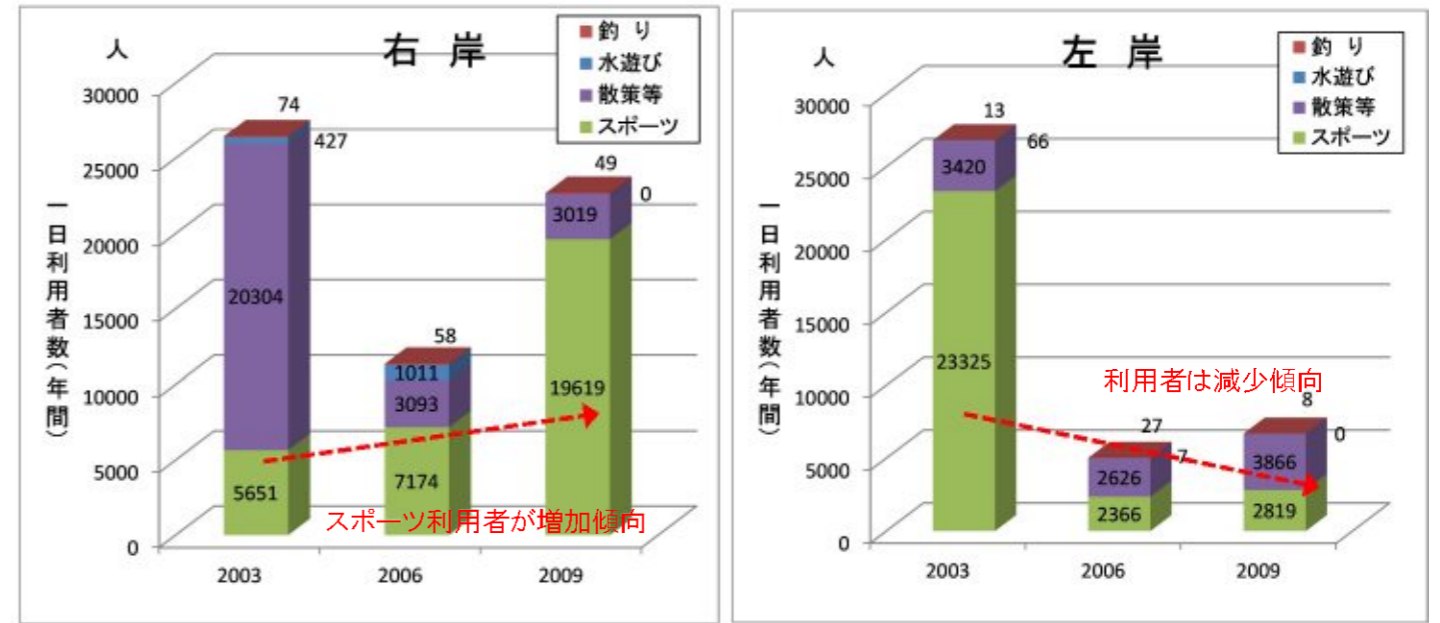


図-3 矢作緑地区間の利用形態(出典:空間利用実態調査結果,国土交通省)
《休日5日平日2日計7日の実態調査より推計した1日利用者数》
《矢作緑地に関連する37.0~41.6kのみ集計》

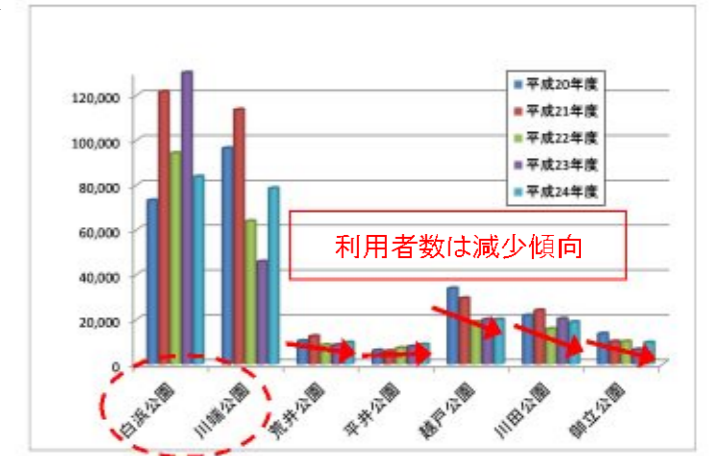
(2) 矢作緑地内の公園の利用状況

矢作緑地内の公園(白浜公園・川端公園・荒井公園・平井公園・越戸公園・御立公園)の利用者数は、[近年では約25万人程度で推移](#)している。

しかし、公園別の利用者数の経年変化から、[白浜公園および川端公園の利用者が多く、その他の公園の利用者数は減少傾向にある。](#)



図-4 矢作緑地の年間利用者数の推移
(出典:豊田市統計資料)



一部の公園で利用者が多い
図-5 公園別の年間利用者数の推移
(出典:豊田市統計資料)

(3)都心との連携

また、豊田都心地区におけるヒアリング調査結果（H25.9.16～17）より、都心地区への来訪目的は、買い物が大部分を占め、矢作緑地等の利用を含む観光・レジャーを目的とした来訪者は1割程度と少ない。

来訪交通手段も、徒歩での利用は2割程度であり、自家用車が最も多い。このため、都心から矢作緑地を徒歩で回遊するような利用はなされていない可能性が高い。

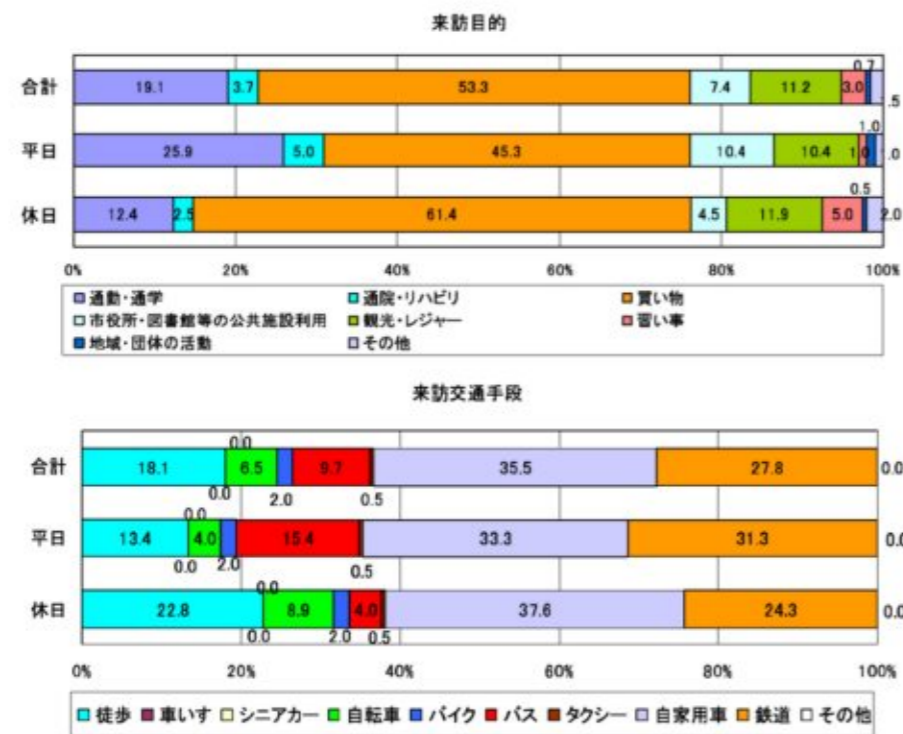


図-6 都心地区への来訪者の目的および利用手段
(出典:ヒアリング調査結果,H25)

(4)親水性

公園が整備されている区間では、川沿いに河畔林が形成されているが、竹林等が密生する箇所も多いため、川面も視認することができず、容易に川に近づけない箇所が多い。また、河床の二極化により川面と陸地に落差が生じており、安全に水辺に近づきにくくなっている。川岸まで近づけるのは、「千石公園」「古巣水辺公園」「荒井公園」「御立公園」等の一部の公園に限られる。

高水敷はグラウンドや芝生の整備が主体であり大きな木が無いため、休憩場所となるような木陰が無い。川岸の河畔林も竹林が密生する区間が多く、河畔林内に立ち入りにくいため、木陰として利用しづらい環境となっている。

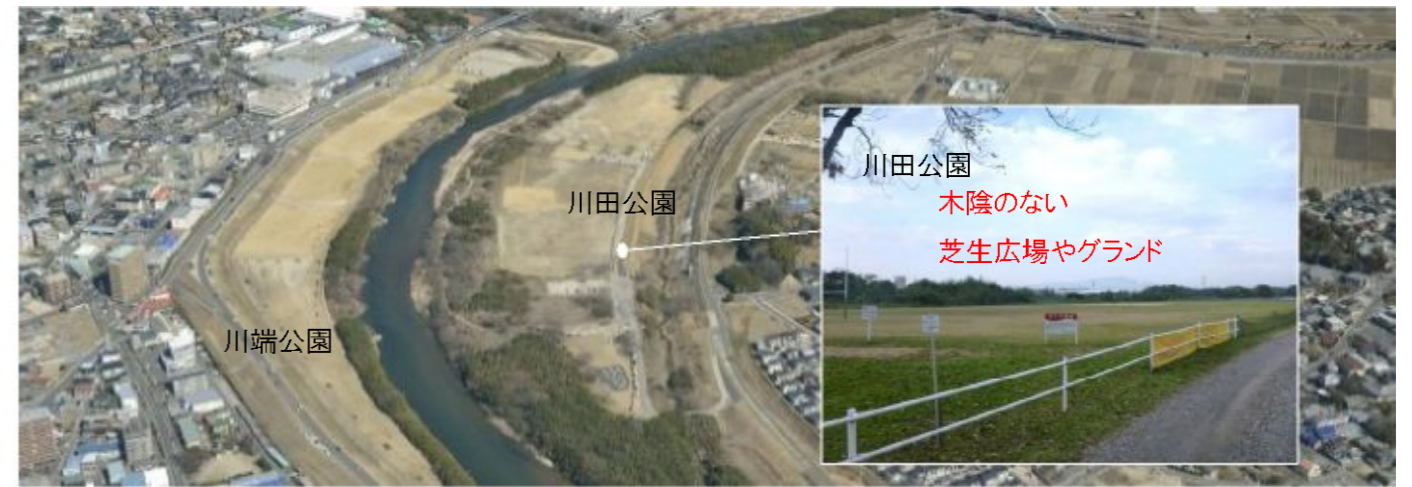


図-8 高水敷の利用状況

2.2 住民意識

平成 23 年度に実施した市民意識調査の結果より、市の取組みへの期待度が高い項目の中に、以下の項目が上がっており、水辺や緑地整備・保全に関する市民の期待値は大きい。

- 水辺環境の整備・安定した水資源の確保 (5 番目/41 項目中)
- 公園・緑地の整備 (12 番目/41 項目中)
- 森林・緑地の保全 (16 番目/41 項目中)



図-9 市民意識調査の結果
(出典:市民意識調査結果,H23)



図-7 平成記念橋上流域(右岸)の河畔林の状況

3. 矢作緑地の課題

① 川の利用が減っている

○高水敷におけるスポーツ利用が主であり、水遊びや釣り等の川の利用は少なく、矢作緑地内の回遊性は低い。

○高水敷はグラウンドが主で大きな木が無く、散策等の利用者が休憩できる木陰等も少ない。



図-10 ゴルフ練習場の利用者



図-11 スポーツでの白浜公園の利用者



図-12 木陰の無い高水敷(川端公園)

② 親水性が低下している

○河床の二極化による高低差により、安全に川に近づくことが困難である。

○マダケ林等の密生により、容易に川に近づくことが困難な箇所が大部分を占める。



図-13 川にアクセスできない公園(平井公園)



図-14 川岸に形成される密生した河畔林(久澄橋下流)

4. 事例紹介

4.1 矢作緑地におけるイベントの開催事例

○太陽光ライブの開催

河川敷に太陽光パネルを設置し、ワールドミュージックやロックフェスティバル、出店の使用する電気まで、すべての電力を現地で賄い実施するイベントを開催している。



図-15 太陽光パネルの新聞記事

○天然アユ感謝祭

矢作川とふれあうイベントとして、天然鮎感謝祭が実施されている。天然鮎感謝祭は、鮎の塩焼き体験、つかみ取りコーナー、釣り大会、クイズ大会などが開催されている。



図-16 千石公園(豊田大橋下)でのクイズ大会の開催の様子



図-17 釣り大会の参加者

5. 課題の解決に向けて

① 矢作緑地内における回遊性の確保

現状では、矢作緑地内の公園利用者はスポーツ利用が多い。このため、利用者がスポーツだけでなく、川も利用し、矢作緑地を回遊する気持ちにさせる魅力を感じる公園整備を検討する。

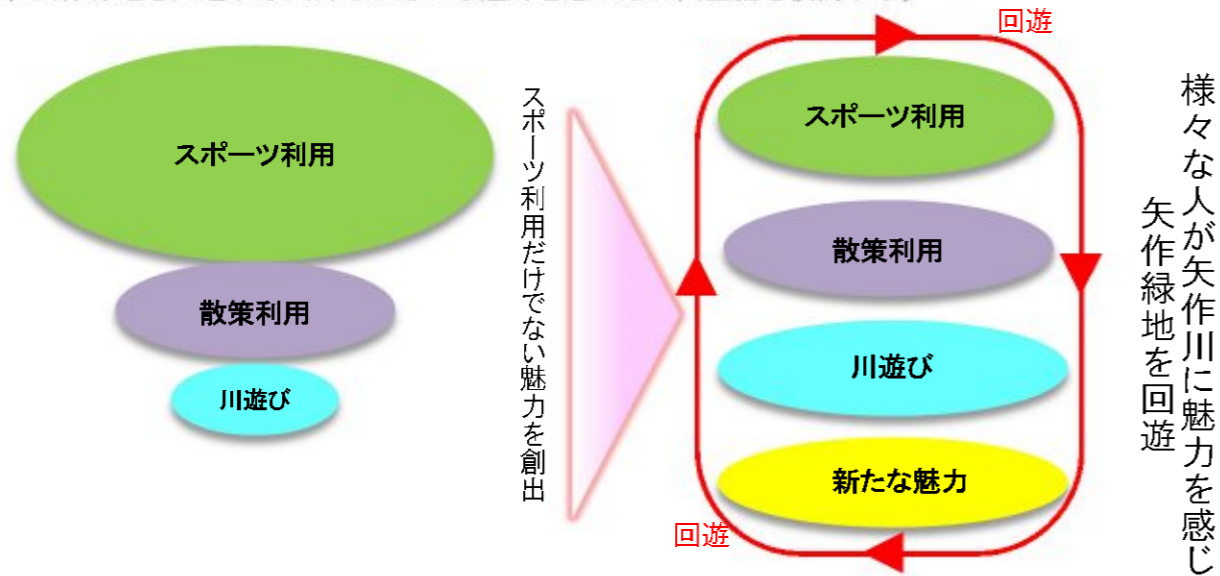


図-22 利用方法の改善イメージ

【検討項目】

- 関係者や公園利用者からのアンケート調査等による意見収集・分析
- 市街地から矢作緑地へのアクセスの向上
- 川あそびの普及と多様化
- 集客性の高い新たな魅力の模索

② 親水性の向上

現状では、密生した河畔林により水辺に近づけない区間が多いため、生態系に配慮した間伐等の実施手法を検討する。また、滞筋の河床低下に伴い河床が二極化し、高水敷との落差が生じているため、落差の解消方法を検討し、安全に水辺に近づける空間を創出する。



図-23 人が安全に川に近づける豊田大橋下の階段



図-24 親水性の高い古巣水辺公園

【検討項目】

- 河岸状況（落差や植生の被覆状況等）の現況把握
- 親水性の向上が必要な箇所（区間）の設定
- 地域住民との共働による低水路河岸や河畔林の整備